

| | |
|---|--|
| 開講科目名 Course | 租税法研究演習 2 年（松井先生） / Seminar on Tax Law |
| 時間割コード Course Code | 18021 |
| 開講所属 Course Offered by | 法学研究科修士課程 / |
| 開始年度・学期 Start Year・Semester | 2022年度 / Academic Year 前期 |
| 曜限 Day, Period | 土 / Sat 3 |
| 開講区分 semester offered | 通年 / . |
| 単位数 Credits | 4.0 |
| 学年 Year | 2,3,4 |
| 主担当教員 Main Instructor | 松井 幹夫 |
| 科目区分 Course Group | 研究演習科目 |
| 教室 Classroom | 5 2 演習室 |
| 講義形式 Lecture Style | 演習科目 |
| 担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation) | 松井 幹夫（法学研究科修士課程） |
| 授業の目標 | 論文を作成し完成させる。毎週土曜日のゼミの開催に合わせ、その週の日曜日までに書き上げた論文について、教授の指導を仰ぐ。 また、第一次中間発表(6月)に合わせた論文の進捗管理を各自教授の指導を仰ぎながら徹底する。 |
| 授業の概要 | 本演習では、参加者各自が選択したところによる専門テーマについて、テーマ選択者による報告、他の参加者による質疑、全員による討議を通じて租税法の研究を深めるとともに、修士論文の選定と作成指導にあたる。具体的には次の通りとする。 (1)4月～7月：論文テーマを選択・決定し、必要な資料を収集させ、論文の目次を策定させることまでを目標とする。 (2)夏休み：自主ゼミの実施を通し、書き易いところから書き始め、論文の形を作り上げることを目標とする。 (3)9月～10月：論文の中身の整合性及び論旨展開等のチェックを通じて、論文を作り上げることを目標とする。 (4)10月末：この時期までに、初稿が出来上がることを目標とする。 (5)11月～12月：論文の内容精査及びゼミ生同志による読み合わせチェックを行う。 (6)1月：期限までに論文を提出させる。 【評価方法】 出席及び授業への貢献度等を総合的に勘案して評価する。 |
| 評価方法 | 出席状況、指導状況、論文提出状況、ゼミ内での発言状況等を総合勘案したうえで評価する。 |
| 教員の指導に従わない以外の事由による失格基準 | 特になし。 |
| 授業計画 | 1回から15回まで共通して自己が選定したテーマに係る租税法論文の初稿段階のものを書き上げていく。 |
| テキスト | |
| 参考書 | |
| アクティブラーニング、ディスカッション、実習等 | 含まない |
| アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容 | |
| 実務経験のある担当教員による授業 | 該当しない |
| 担当教員の実務経験を活かした授業の内容 | |
| 質問への対応方法 | ゼミの時間で随時対応 |

| | |
|--------------------|---|
| フィードバックの方法 | ゼミの時間内に添削した論文を返却 |
| 予習・復習等、準備学習の内容及び時間 | 論文作成に必要な追加資料の収集、論文作成に必要な時間を確保しておく必要がある。 |
| 使用言語 | 日本語 |
| SDGs 17の目標（1～10） | |
| SDGs 17の目標（11～17） | |
| PROGリテラシーの要素 | |
| PROGコンピテンシーの要素 | |